

キューピー醸造がお届けする、 食酢と卵殻から生まれたカルシウム肥料。

食品由来の成分なので環境や人にやさしく
安心してご使用いただけます。
定期的な葉面散布で、
野菜や植物が元気に育ちます。



✧ 3つの特長 ✧

元気に育つ！
Ca肥料

食酢＋卵殻
吸収がよい！

Ca欠乏症
対策に！

作物と効果

レタス・キャベツ等	➡	チップバーン軽減
トマト・ピーマン等	➡	尻くされ・なり疲れ軽減
タマネギ・ジャガイモ等	➡	生育安定
花 (トルコキキョウ・キク等)	➡	葉先枯れ減少



葉活酢(ようかつす)
バッグインボックス(22kg/1)
1Lペットボトル(1090g/12)
【原材料】醸造酢、卵殻

【使用例】300倍を目安に希釈して葉面に散布

キューピー醸造

キューピー醸造株式会社 営業本部 営業統括部
〒182-0002 東京都調布市仙川町2-5-7
TEL:03-5384-7672 FAX:03-5384-7802

▶ 詳しい商品情報はホームページへ
<https://www.kewpie-jyozo.co.jp>



ようかつす 葉活酢

特殊肥料

【茨城県 第2294号】

【滋賀県 第517号】

葉活酢Wは滋賀県で生産しており、
葉活酢と同じ商品です。

【特長と効果】

1. 作物の栽培中にカルシウムを直接作物体に補給する事が出来ます。
2. カルシウム欠乏に由来する生理障害(チップバーン、葉先枯れ、芯腐れ、尻腐れなど)の防止に役立ちます。
3. カルシウムにより細胞壁が強化され品質・日持ちの良い作物が収穫出来ます。
4. 酢酸が葉面吸収される事により植物の代謝が活性化する事が期待出来ます。

【使用方法】

希釈濃度・散布時期



※展着剤を混合して散布するとさらに効果的です。

散布量 10aあたり100L
施肥のポイント カルシウム欠乏症が発症する前に早めの散布をしてください。定期的な散布がおすすめです。発症しやすい部位に丁寧に直接散布してください。

【施肥上の注意】

- ・高温時における、日中の散布は避けてください。
- ・リン酸が含まれている肥料との混合は、混和性をご確認の上、ご使用ください。
- ・アルカリ性農薬等との混用は避けてください。
- ・原液が目に入らないように注意し、もし目に入った場合は直ちに水で洗い流してください。
- ・うすめた液は腐敗防止のため、残さないように必要量のみ調整して使い切ってください。

【原材料】

醸造酢、卵殻

【主成分】

酢酸 4.0% カルシウム 3.4% (酢酸カルシウム 14%)

【分析値例】

酸度 4.0% pH 5.0

【使用期限】

製造後720日

【荷 姿】

バグインボックス(22kg/1) 1Lペットボトル(1090g/12)

葉活酢使用例（作物と効果、散布時期）

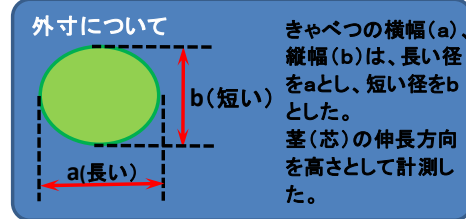
..... 散布時期

	作物名	効果		散布タイミング			
		生理障害予防	品質向上	播種⇒育苗	前期	中期	後期
1	トマト	尻腐れ	樹勢が良くなる	800倍2回		300倍着果後10日おき	
			秀品率アップ				
			病害虫への抵抗力がつく				
2	レタス	チップバーン	日持ちが良くなる	800倍2回		結球初めから300倍5回以上	
			輸送ダメージに耐える				
			重量増加				
3	キャベツ	チップバーン	日持ちが良くなる	800倍2回		結球初めから300倍5回以上	
			葉巻きのしまりがしっかりする				
			重量増加				
4	ハクサイ	芯腐れ	日持ちが良くなる	800倍2回		生育中期から300倍5回以上	
			葉巻きのしまりがしっかりする				
			重量増加				
5	ジャガイモ	—	黄変が早まる			生育中期から300倍5回以上	
			デンプン価上昇				
			重量増加・安定した大きくなる				
6	タマネギ	葉先枯れ	葉茎重量増加	800倍	800倍	生育中期から300倍3～5回	
			球の肥大・重量増加				
			病害虫への抵抗力がつく				
7	ホウレンソウ	—	収穫期が早まる		800倍	生育中期から300倍3～5回	
			元気に葉がたつ				
			病害虫への抵抗力がつく				
8	ピーマン パプリカ シシトウ	尻腐れ	樹勢が良くなる	800倍2回		300倍着果後10日おき	
			秀品率アップ				
			病害虫への抵抗力がつく				
9	キュウリ	—	葉の勢いが良くなる	800倍2回		300倍着果後10日おき	
			秀品率アップ				
			病害虫への抵抗力がつく				
10	イチゴ	チップバーン 軟熟果	葉の勢いが良くなる	定植後800倍 2回程度		300倍着果後10日おき	
			秀品率アップ				
			形状が良くなる				
11	花卉	葉先枯れ	葉の勢いが良くなる	800倍2回		生育中期から300倍3～5回	
			生育安定				
			日持ちが良くなる				
12	リンゴ	ビタービット	硬化にも効果あり			落花10日後から 防除に合わせ3～5回 300倍	肥大期にCa欠予防で 散布300倍
			秀品率アップ				
			病害虫への抵抗力がつく				
13	キク	葉先枯れ	葉焼け予防	定植前800倍2回		生育中期300倍3回以上	
			輸送ダメージに耐える				
			茎葉の硬化				
14	水稻	—	食味アップ	800倍2回			出穂登熟期に散布300倍2回
			倒伏予防				
			苗の健全率アップ				

n=	重量(g)		外寸(mm)						茎径(直径mm)	
	試験区	対照区	試験区			対照区			試験区	対照区
			横幅(a)	縦幅(b)	高さ	a	b	高さ		
1	1,950	1,420	200	220	145	200	195	125	30.9	30.9
2	2,080	1,640	215	210	140	210	190	120	32.7	33.2
3	2,180	1,700	220	220	140	215	210	120	32.9	33.2
4	2,210	1,790	230	210	145	220	210	125	33.2	33.7
5	2,240	1,840	230	230	135	225	210	115	34.0	34.0
6	2,240	1,900	230	230	140	225	210	135	34.0	34.1
7	2,280	1,900	230	210	140	230	210	125	35.0	34.6
8	2,420	1,910	230	230	135	230	225	140	37.0	35.4
9	2,650	2,220	235	235	145	230	220	145	39.0	35.5
10	3,140	2,380	245	245	160	230	220	120	39.0	37.4
平均	2,339	1,870	227	224	143	222	210	127	34.8	34.2
中央値	2,240	1,870	230	224	140	225	210	125	34.0	34.1
葉活酢使用品の評価	対照品と比較して370g重い		対照品と比較して 横幅(a):5mm、縦幅(b):14mm、高さ16mm長く 球のサイズが大きい						対照品と比較して 0.6mm長く 茎径は太い	

栽培データ		葉活酢散布状況
2016年8月1日	播種	
2016年8月25日	定植	初回散布
2016年9月10日		2回目散布
2016年10月10日		3回目散布
2016年10月26日		4回目散布
2016年11月29日	収穫	

*各回300倍希釈にて葉面散布



芯の様子: 葉活酢を使用したキャベツ芯の長さが短く、対照品は長かった。葉活酢を使用したほうは葉巻がまだおこなわれている活性のある状態と推測される。対照品は葉巻が終了し、春に向け開花準備に入ったと思われる(とうがたつ)。
葉活酢を使用したほうは養分をよく吸収し、活性があることを示している。



根の様子: 葉活酢を使用した根は対照品の根に比べ直根は長く・太いものが多い。側根の量は葉活酢を使用したものの方が多い。定植時は茎の太さがほぼ同じであるが、葉活酢の使用によって茎上部の径に広がりが見られる。
根の広がりには土壌中の養分吸収を盛んに





【岩見沢タマネギ園場】 品種:オホーツク222

6月下旬から7月末まで500倍液を5回散布

未散布

16.07.02



葉活酢

16.07.02



未散布

16.07.28



葉活酢

16.07.28



【考察】

散布区の葉先は枯れが見られず、後期まで順調に生育しました。

1反あたりの収穫重量は散布区で6トン、昨年同一園場(未散布)で5.3~5.5トンでした。

2Lサイズが多かった。

南あわじ農業改良普及センター

(2017年7月3日)

タマネギ(ターザン)	慣行区	試験区 (葉活酢使用)	葉活酢を使用したことによる効果
反収(kg/10a)	8,347	8,994	増収約650kg、7.8%UP (100円/kgとして65,000円増収)
健全率(%)	100	100	病気・不良の発生は無かった
平均球重(g/個)	295.8	318.8	重量増加7.8%UP
20株当たりの 葉茎部重量(kg/20株)	1.76	1.98	葉茎部の重量は光合・土壌の養分の吸収がしっかり 行われ、球太りを促した

弊社での検証結果

じゃがいも圃場

試験場所：北海道網走郡



左側の葉活酢散布エリアは、葉の黄変が進行(早熟)

種植え

6 2 日後

6 9 日後

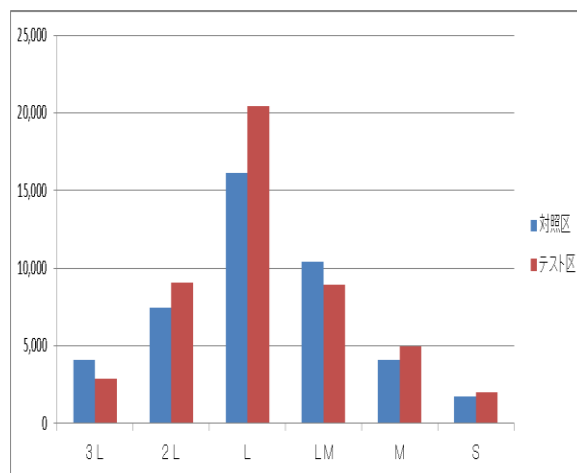
7 8 日後

1 2 3 日後
収穫

葉活酢 500 倍希釈液を 100L / 10a 散布
対照区は、慣行に従う

対照区

葉活酢



総重量で 110% の差が生じた。
特に L サイズの収穫量が多くなった。
デンプン価も対照区 12.6 に対しテスト区は、14.2 と向上した。

《 トマト栽培情報 》

- ・ 葉面散布は着果後から500倍で1週間間隔で行っている。
- ・ 収穫期は2月中旬～7月上旬。
- ・ 幹が太くしっかりして、葉の茂りもよくなった。花芽も色づきが良くしっかりしている。
- ・ 葉活酢ご使用2年目。1年目は途中から使用していただいていたが、今年度は栽培スタートから使用し昨年との違うとのコメントでした。



- ・ 元気に育ち、窓あき・チャック・尻腐れが激減。奇形果などの不良が減り廃棄も少なくなった。

《 イチゴ栽培情報 》

- ・ 品種は とちおとめ、スカイベリー。
- ・ 葉活酢散布頻度は300倍希釈、週1回。
- ・ 葉の生育が良好で光合成がしっかり行われているため着果後の果実肥大も順調に行われている。
- ・ 甘さ十分、食感も良く大粒で色も赤く上級ランクで売られている。
- ・ “おいしいイチゴ”づくりのなかで葉活酢をご使用いただいております。



- ・ 葉が緑でしっかりとしている。
- ・ 花芽が元気。
- ・ 果実は赤くしっかりしている。

葉活酢をご使用いただく上で特に注意していただきたいこと

希釈倍率について	200倍以上でご使用ください。 200倍未満の濃い液を葉面散布しますと葉焼けを生じることがございます。
散布する時間帯	特に夏の時期は日中気温が上がり高温になる時間帯はお避け下さい。 早朝の涼しい時間帯、もしくは夕刻の涼しい時間帯で散布をお願いします。
他資材との混用 (農薬・肥料・展着剤など)	事前に少量ずつ混ぜて様子を見てください。 熱・濁り・ガスの発生などの異常がないことを確認のうえ、 使用者の責任のもと散布作業を行ってください。
	アルカリ性農薬との混合はお避け下さい。
	リン酸を含む肥料とは混和性を確認してご使用ください。 カルシウムと結合して沈殿が発生する可能性があります。
希釈液について	次回の散布へ繰り越さず、残さないように使い切ってください。

【製造元】

キューピー醸造株式会社
営業本部 営業統括部

本社：東京都調布市仙川町2丁目5-7

【販売元】